

## 稚内市におけるコウモリ類の分布<sup>a</sup>

佐藤雅彦<sup>1)</sup>・美土路建<sup>2)</sup>・疋田英子<sup>3)</sup>・前田喜四雄<sup>4)</sup>

〒097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館<sup>1)</sup>

〒097-0017 北海道稚内市栄1-4-1 北海道立稚内高校<sup>2)</sup>

〒097-0011 北海道稚内市はまなす1-6-10 日本野鳥の会道北支部会員<sup>3)</sup>

〒630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学 自然環境教育センター<sup>4)</sup>

## Distribution of Bats in Wakkanai, Northern Hokkaido

Masahiko SATO<sup>1)</sup>, Ken MIDORO<sup>2)</sup>, Hideko HIKITA<sup>3)</sup> and Kishio MAEDA<sup>4)</sup>

Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan<sup>1)</sup>

Hokkaido Wakkanai High School, 1-4-1 Sakae, Wakkanai-shi, Hokkaido, 097-0017 Japan<sup>2)</sup>

A member of Do-hoku branch of Wild Bird Society of Japan, 1-6-10 Hamanasu, Wakkanai-shi, Hokkaido, 097-0011 Japan<sup>3)</sup>

Education center for Natural Environment, Nara University of Education, Takabatake-cho, Nara-shi, 630-8528 Japan<sup>4)</sup>

**Abstract.** Distribution study for bats was carried out in Wakkanai, northern Hokkaido for the first time. Two bat species, *Murina ussuriensis* and *Myotis ikonnikovi*, were captured by mist net. We had also reactions of Bat-detector with a peak at 25kHz at streetlights. An old specimen of an unidentified bat, which was captured at Wakkanai Hospital, Komadori 2, in 1961 by a student, was stocked at a part-time high school of Wakkanai. This specimen was identified as *Tadarida insignis*, and it was the second record of this species from Hokkaido.

### はじめに

筆者らは1993年より道北地方においてコウモリの分布調査を行い、文献記録などもあわせて8町1村において12種の棲息を確認してきた(前田・佐藤, 1995; 佐藤・前田, 1999; 佐藤・前田, 1999; 佐藤ほか, 2000; 佐藤ほか, 2001; 佐藤ほか, 2002)。これらの成果のひとつとして、国内に棲息するコウモリの北限がおぼろげながらわかってきたことがあげられる。しかし、北海道本土の最北の地である稚内市ではこれまでコウモリの調査が行われたことがなく、保護記録(佐藤, 2002)以外にはコウモリがはっきりと確認されたことはなかった

(河井, 1999)。稚内市史編纂室(1968)にイエコウモリの記述があるが、これまでの北海道におけるイエコウモリの記録を考えると、これは人家に紛れ込んだ他種の可能性が高いと思われる。しかし、福井ほか(2003)で述べられているように、港から物資の輸送に紛れて北海道に侵入した個体である可能性も捨てきれない。稚内市史編纂室(1968)のこの記録は標本の所在や具体的な確認記録が明記されていないので、同地からの記録としては信頼性が低いと本調査では判断し、本報告では記録としては取り上げないこととする。稚内市は人口約4.3万人を抱える最北の都市であり、日本最北端の宗谷

岬やハクチョウ飛来地である大沼などを訪れる観光客も多い。産業としては、漁業のほか、牧畜業も盛んであり、大規模牧草地に代表される広大な草地には目を見張るものがある。しかし、牧草地の開発が進んだことは、コウモリのねぐらとなる森林の減少をも伴ってきたはずである。このような環境で果たしてコウモリが棲息を続けることができるのかどうか、分布上の興味とはまた別な意味で興味深い点と言える。そこで、稚内高校科学部の協力などを得るとともに、稚内市においては初めてとなる捕獲調査を実施した。

報告に先立ち、以下の方々には現地調査でたいへんお世話になった。名前を記すとともに、心からお礼を申し上げる。稚内高校科学部（3年：荒井未久さん、阿部りえさん、大塚聖美さん、2年：佐々木亜里沙さん、1年：上田理佳子さん、上野夏季さん、上原千江美さん）、庭山淑人さん（稚内高校教員）、佐藤里恵さん（日本野鳥の会道北支部）、Lazaro M. Echenique Diazさん（東北大学進化生態科学講座）には英文校閲をいただいた。また杉村直樹さん（宗谷支庁地域政策部環境生活課）には稚内高校定時制新聞の記事について貴重な情報を提供していただいた。このことがなければ同校に眠るコウモリ標

本を見ることはなかったことと思われる。ここに記して厚くお礼申しあげる。

### 調査期間、調査地および調査方法

捕獲調査の前に、事前にコウモリを目撃や死体の拾得に関する情報提供の呼びかけを行うとともに、予備調査としてバットディテクター（コウモリの超音波を人間に聞こえる音に変換する器械）を用いてコウモリの飛翔状況を調べた。聞き取り調査については稚内高校科学部にご尽力いただいた。これらの結果を参考にして、捕獲調査が2002年8月6日から9日までの4日間と9月14日に行われた。

調査地点は図1の通りで、以下に簡単に概説する。稚内市は地形などからおおまかに西部と東部に分けることができる。西部は声間川流域に広がる幕別平野により、牧草地などの平坦な土地が主体となり、林が残る丘陵地帯は点在するにすぎず、深い森はあまり見られない。また、それらの林も植林地が多い。稚内市の市街地は野寒布岬の付け根に位置し、岬の丘陵地には比較的コウモリの棲息に適したと想像される森が残っている。一方、東部ではモイマ山（標高232m）などの標高は低いものの多くの沢が入り込む広大な丘陵地帯が形成され（宗谷丘陵）、周水

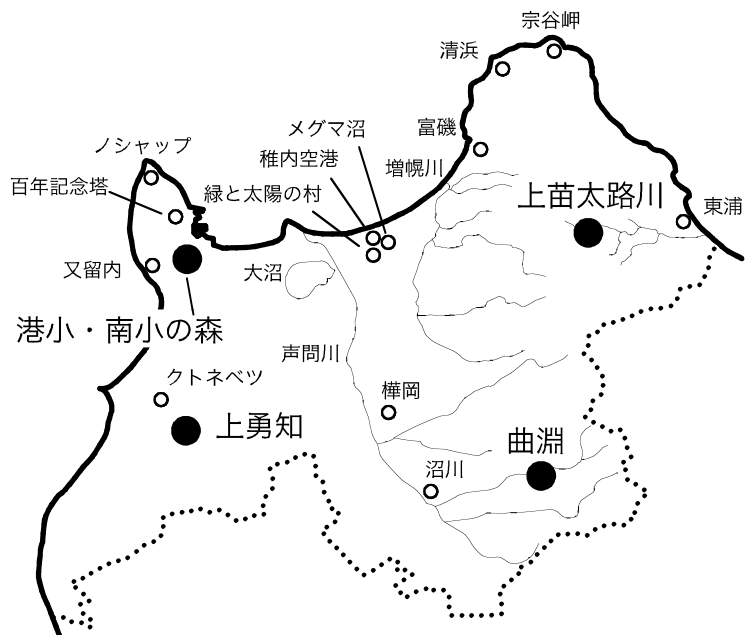


図1. 調査地。Figure 1. The map of Wakkanai City (Solid circles show the locality sampled with mist nets).

表 1. 捕獲調査の場所と植生. Table 1. Sampling localities and flora in Wakkanai.

年月日	場所	緯度経度 <sup>1)</sup>	主な植生 <sup>2)</sup>
2002.viii.6	南小の森	a) N45°23'25.9", E141°40'17.5", b) N45°23'27.7", E141°40'28.0", c) N45°23'27.3", E141°40'33.2"	ケヤマハンノキ*, ノリウツギ, チシマザサ*, キツリフネ, オオバコ, (ヒロハノ) キハダ, ホオノキ, エゾイタヤ, エゾニワトコ, チシマアザミ, シャク, ミゾソバ, オオタチツボスミレ, オククルマムグラ, アマチャヅル, ミヤマトウバナ, イケマ, エゾイラクサ, オオバタケシマラン, オニシモツケ, ミミコウモリ, ウマノミツバ
2002.viii.7	上苗太路川上流	清雲橋 (N45°24'16.1", E141°57'41.1") の下の旧道の森	ナナカマド, ケヤマハンノキ*, オノエヤナギ*, ヨブスマソウ, エゾイラクサ, チシマザサ*, オニシモツケ, ミミコウモリ, ミゾソバ, アキタブキ, エゾニュー, ハンゴンソウ, エゾイタヤ, ハリギリ
2002.viii.8	上勇知	N45°16'59.1", E141°40'32.0"	チシマザサ*, トドマツ* (植林地), アカエゾマツ, ヒロハノキハダ, ケヤマハンノキ, ノリウツギ, ヤマウルシ, ハリギリ, オヒョウ, アキタブキ, チシマアザミ, オオイタドリ, ダケカンバ, ヨツバヒヨドリ, ツタウルシ, ウド, ハンゴンソウ
2002.viii.9	曲淵	a) N45°15'25.8", E141°55'55.7", b) N45°15'25.8", E141°56'00.4", c) N45°15'25.1", E141°55'58.5"	アキタブキ*, オオイタドリ*, ミヤマトウバナ*, オニシモツケ, エゾイラクサ*, オオヨモギ, ヒメジョオン, エゾニュー, ハルニレ*, エゾイタヤ, エゾゴマナ, ハンゴンソウ, オニシモツケ, オノエヤナギ*, ケヤマハンノキ*, チシマアザミ, イケマ, ウド, クマイザサ, オオバコ, セイヨウタンポポ, ヨブスマソウ
2002.ix.14	港小の森	N45°23'55.49", E141°40'21.45"	キハダ, ナナカマド, エゾイタヤ, トドマツ, キツリフネ, クマイザサ, ツタウルシ, エゾゴマナ, アキノキリンソウ

1) アルファベットは設置したかすみ網の場所

2) \*は優占種

河地形としても有名である。東部は西部に比べると森も深く、森が連続した分布をしており、ヒグマが出没することもある。

捕獲調査期間中、日中は地元住民などへの聞き込みや拾得死体の探索、廃屋などの調査、および調査場所の下見を行い、夜間はカスミ網による捕獲調査を実施するとともにバットディテクター（以下、BD）による周辺地域でのコウモリの飛翔状況を調べることに努めた。捕獲されたコウモリは、同定・計測作業を行った後、すみやかに放獣した。ただし、ホオヒゲコウモリの仲間は頭骨の測定値がなければ正確な同定ができないため、捕獲された4個体のうち1個体を標本とし同定を行った。種の同定は阿部ほか（1994）に従い、学名は前田（1996）、和名は前田（1997）を参考にした。なお捕獲調査は環境省からの許可（環西道許第490号）を得て、実施された。

**結果**

以下に調査の詳細を述べる。

**【捕獲調査】**

捕獲調査は以下の5カ所で実施された（調査日、植生およびGPS値は表1を参照）。

1. 南小の森

稚内市街地に近いケヤマハンノキなどを中心とした広葉樹林で、散策路に沿って約1mぐらいの幅の川が流れる。散策路をふさぐように1枚、川と散策路をまたぐように1枚、そして川と沼がつながる比較的上方に空間がある場所に1枚、かすみ網を設置した。19:00に設置が完了し、20:05の気温は16°Cであった。この場所では捕獲および25-40kHzにおけるBDの反応さえ聞くことはできなかった。

2. 上苗太路川上流

上猿弘清浜線との合流点を少し過ぎた場所で、旧道と思われる古い車道の森に設置した。ケヤマハンノキを主体とした広葉樹林で、森も深い。道路をふさぐように1枚（a地点）、水路奥の0.8m程の幅の川の分岐点で川をまたいで1枚（b地点）、この

表2. 捕獲されたコウモリの計測値. Table 2. Measurements of captured bats.

捕獲されたかすみ網の設置場所	捕獲時間	捕獲された位置	性別	幼獣の判定	前腕長 (mm)	体重 (g)	和名	処理
① a 地点	19:32	中段 (1.6m)	♀	幼獣	32.3	6.6	ホオヒゲコウモリ属未同定種	放獣
② c 地点	20:18	上段 (2.0m)	♂	成獣	32.7	6.6	ホオヒゲコウモリ属未同定種	放獣
③ a 地点	20:20	中段 (1.3m)	♂	成獣	33.0	6.5	ヒメホオヒゲコウモリ	標本
④ a 地点	20:20	中段 (1.6m)	♀	成獣	32.3	6.6	コテングコウモリ	放獣
⑤ a 地点	20:20	中段 (1.5m)	♂	成獣	33.6	7.1	ホオヒゲコウモリ属未同定種	放獣

水路から車道に向かう林道をふさぐように1枚 (c 地点), かすみ網を設置した. 19:30 から 21:30 までに5個体のコウモリが捕獲され, これが本調査における唯一のコウモリの捕獲となった. BD による反応も多く, a 地点では, 19:43, 19:50, 20:12, 20:15, 20:43, 20:56, 21:02, 21:19 において 40kHz で反応があり, 特に 20:15 の反応は激しく, その直後に3頭が連続して捕獲された.

### 3. 上勇知

牧草地帯に囲まれた丘陵地の植林地の林道に3か所, かすみ網を設置した. 19:20 に設置を完了し, 19:30 の気温は 12.5°C だった. 25-40kHz における BD の反応もなく, 21:00 に撤収した.

### 4. 曲淵

入り口付近から林道横に幅約 4 m ほどの川が沿って流れ, ケヤマハンノキやハルニレなどの広葉樹が奥に行くにしたがって太くなっていく. 川にはカワセミなども見られた. かすみ網は, 5m の川幅の橋の下に1枚 (a 地点), 林道をふさぐように2か所 (b, c 地点) 設置した. 調査当日は霧雨で, 19:53 の気温は 11°C であった. a 地点では BD による反応 (40kHz) が, 20:01, 20:06, 20:12 とあり, 川に沿った飛翔をコウモリが行っていたようだったが, 捕獲には至らなかった. 他の地点での反応や捕獲がなかったことと霧雨がひどくなってきたため, 21:10 に撤収した.

### 5. 港小の森

「南小の森」と似た環境で, 幅 1 m の川を伴う散策路が続き, キハダやナナカマド, エゾイタヤなどに混じってトドマツも見られた. かすみ網の設置場

所は, 小学校裏の入り口から歩道をふさぐように3か所を選んだ. 夕方に多かったカなどの飛翔昆虫は日没後にはいなくなり, コウモリの反応も確認することはできなかった.

なお, 以下の場所では捕獲調査の下見をしたが, かつてあった森が牧草地に変えられていたり, 樹洞があるような大きな樹がないという理由から実際に捕獲調査を行わなかった.

- 1) 下増幌, ノースバレーの奥, モイマ山麓 (N45° 23'40.2", E141° 54'56.8"): 「南小の森」に環境は似ているが, 片側が崖となり, 両側から樹が覆いかぶさることはなく, かすみ網を設置しにくい場所である.
- 2) クトネベツ (抜海), 下勇知: 森が孤立し, なおかつ疎で, 大木がない. 森であった場所が牧草地となっていたことが多く, かすみ網の設置を断念した.
- 3) 更喜苦内~大規模草地: 丘陵地帯に森が残るが, 植林が多い. 太い樹もあるが, 網の設置に適した場所がなかった.
- 4) 緑と太陽の森: 森が広がるが, 細い樹が多い.
- 5) 樺岡: 車道に沿って天北線の鉄道林が並び, ハルニレなどの樹洞を持った比較的太い樹がある. しかし, 林の面積は狭く, 牧草地に囲まれており, 網を張る場所はなかった.
- 6) 沼川: 声間川にむかう河畔林 (カラマツの植林など) が続くが, 湿地で林道などもなく, 網を設置する場所を見つけることはできなかった.
- 7) 曙~上修徳: 孤立林があるが, 植林が多く, 太い樹もほとんど見当たらなかった.

以上5か所における捕獲調査により, コテングコ

ウモリ *Murina ussuriensis* 1 個体, ホオヒゲコウモリ属 *Myotis* spp. 4 個体が捕獲された (表 2), これらはすべて上苗太路川上流の 1 か所で捕獲されたものである。

ホオヒゲコウモリとヒメホオヒゲコウモリは道北地域に分布するが, その同定は外部形態では極めて困難であり, これまで本調査地では両種の確認がされていなかったため, 頭骨の計測値を用いて正確な同定作業を 1 個体についてのみ行った (表 3)。両種が同所的に棲息する可能性があるため, 放獣したホオヒゲコウモリ属の残りの 3 個体についてはここ

では未同定種 (*Myotis* spp.) とした。計測単位は mm, g を用い, 計測場所は前田 (1983), 佐藤ほか (2001) に基づいた。同定の結果は, ヒメホオヒゲコウモリ *Myotis ikonnikovi* であり, 稚内市においては初めての分布記録となった。

【聞き取り調査】

これらの捕獲調査に先立ち, 稚内高校科学部では家族などを通じてコウモリの目撃情報などを収集した。その結果, 1994 年頃から 2002 年までに 8 件の目撃記録などがあったが (表 4), 捕獲調査に適さない場所であったり, 実際に BD による反応調査をしても全く反応がなかったりと, これらの記録を再び確認できるような証拠を得ることはできなかった。この中で百年記念塔付近での目撃例は複数あり, 今回, 南小および港小の森での捕獲調査では反応が得られなかったが, 緑町でのコテングコウモリの保護記録もあり (佐藤, 2002), 市街地に接する森にもコウモリが棲息している可能性は大いに残っている。今後の継続調査が必要かと思われた。

【BD による反応調査】

稚内市内における捕獲調査では, その調査場所の選定が次のような理由から非常に困難であった。それは, コウモリが棲息するような樹洞がある太い樹を有する天然林がほとんどないことであった。太い樹がないためにコウモリが棲息していないとはい切れないが, これまでの捕獲調査の経験上, 太い樹がある場所にはコウモリが棲息していることが多いように感じているためである。

そこで, 捕獲調査とは別に, コウモリが活動している時間帯に BD による反応調査を行った (図 2, 表 5)。これは目撃記録があった場所や, コウモリが採餌に来ると思われる街灯や川などを対象に実施した。その結果, 4 か所の街灯において 25kHz に

表 3. RTMM189 の標本データ。Table 3. Collection data and measurements of RTMM189.

標本番号	RTMM189
採集年月日	2002 年 8 月 7 日
採集場所	稚内市上苗太路川上流部
保管場所	頭骨標本, 毛皮標本ともに利尻町立博物館
性	オス
齢	成獣
備考	辜丸は発達しており、5 × 3mm であった
体重	6
前腕長	32.9
下腿長	15.2
後足長	5.5(6.0)
頭胴長	42
尾長	37
耳	12
耳珠	7
頭骨全長 (GL)	13.9
頭骨基底全長 (CBL)	13.3
上顎歯列長-切歯~白歯 (UTL, i-m3)	6.3
上顎歯列長-犬歯~白歯 (UTL, c-m3)	5.3
吻幅 (RW)	3.7
頬骨弓幅 (ZW)	8.4
白歯間幅 (UMW)	5.5
乳様突起間幅 (MtdW)	7.5
脳函幅 (BCW)	7
脳函高 (BCH)	6.4
吻長 (RL)	5.5
脳函長 (BCL)	8
脳函高/頭骨基底全長 (BCH/CBL)	0.481
白歯間幅/頭骨基底全長 (UMW/CBL)	0.413
脳函高/脳函幅 (BCH/BCW)	0.914
吻長/脳函長 (RL/BCL)	0.687

表4. 稚内市内におけるコウモリの聞き取り調査結果. Table 4. Results of the survey of observed and captured bats in Wakkanai city.

目撃した時期	第一情報提供者	場所	内容	聞き取り者
2002年6月頃	岩本さん(富磯)	富磯港	船に羽のない鳥がへばりついていた	上野夏季
2002年	藤井さん(富磯)	富磯	富磯地区の一番西側の増幌川河口近くの藤井さんの家の裏にいた	上野夏季
1994年頃	上原千江美	クトネバツ	上原さんの家にコウモリが迷い込みしばらく飼っていた	上原千江美
数年前	佐々木敏則さん	百年記念塔	百年記念塔に行くと運が良ければコウモリが見える	美土路建
2002年夏頃	木村清英さん	上増幌から北上する車中	コウモリらしきものを見た	木村清英
1999年	新保 徹さん	沼川	みのり公園のトイレに張りついていて、母親も別の日に見ている。	美土路建
1996年	新保 徹さん	沼川	天北中学校裏の森にいた	美土路建
1994-1995年頃	松岡輝真さん	マタルナイ	古い車庫を解体するときにコウモリがいた	美土路建

ピークを持ったコウモリの反応を次のように得ることができた。

- 1) (N45° 23'18.9", E141° 48'06.8") : 動物ふれあいランド・緑と太陽の村付近のバス停留所の街灯(白色, 10 m). 8月9日は 22:36 から 0:00(9°C)

まで、バズ(コウモリが主に昆虫などの餌を捕獲する直前において、声の発生間隔を非常に短くするため、バットディテクターで「ズズズ」といったような特徴的な反応を聞くことができ、これをバスという)を伴った 20kHz 以下から 25kHz までの 1 頭からのものと思われる反応があった。

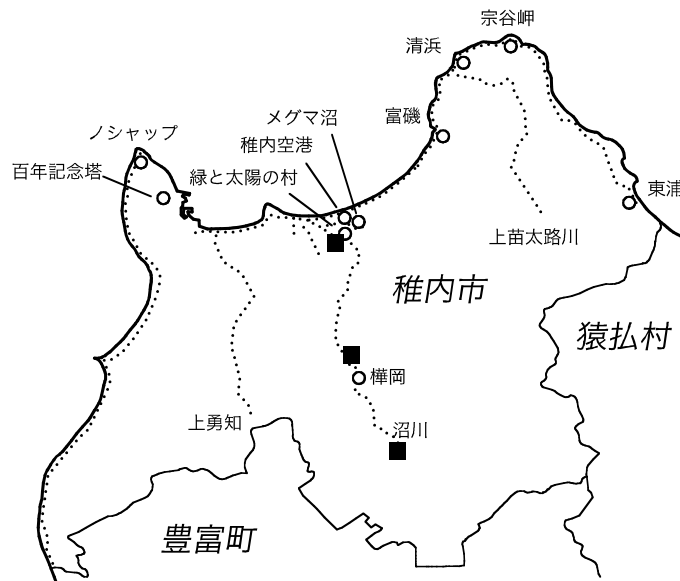


図2. バットディテクターを用いた反応調査を行った経路(点線)と反応があった場所(■). Figure 2. Followed survey routes by using a bat detector (dotted line) and points of getting reactions to bats (solid square).

表5. バットディテクターを用いたコウモリの反応調査. Table 5. Results of the survey of reaction to bats by using a bat detector.

調査日	時間	調査ルート	反応およびその他の状況
2002.viii.6	21:00-23:00	国立療養所→メグマ沼→増幌川→大沼→はまなす	<20-20-25kHzの各周波数における反応なし
2002.viii.7		苗太路→清浜→稚内空港→大沼, 白鳥橋周辺→はまなす	25kHzにおける反応なし
2002.viii.8		上勇知→40号線を北上	25, 40kHzにおける反応なし. 主な橋の上から調査.
		白鳥橋→声間川上流	25, 40kHzにおける反応なし.
		空港→沼川	<20-25kHzにおいて緑と太陽の村(停留所), 樺岡付近の街灯, 沼川市街で反応あり.
2002.viii.9	21:44	沼川市街	25kHzにおいて反応あり. 1個体. バズあり. 前夜の場所.
	22:19	緑と太陽の村(停留所)	8/8に反応があった場所において反応はなかった
	22:33	緑と太陽の村(バンガロー)	25kHzピークの反応あり. 1個体. 「サワギキョウ」と「マイヅルソウ」のバンガローの間の白色の街灯(N45°23'23.5", E141°48'25.6").
2002.viii.14	21:00-21:30	緑と太陽の村(停留所)	反応なし
	晴れ・19°C	緑と太陽の村(バンガロー)	反応なし
		樺岡付近の街灯	反応あり バズあり <20-20-25kHzで反応
2002.viii.17	21:30-22:00	緑と太陽の村(停留所)	反応なし
	曇り・17°C	樺岡付近の街灯	反応あり バズあり <20-20-25kHzで反応 複数個体 1個体飛翔確認
		沼川市街	反応なし
2002.viii.19	21:00-21:30	緑と太陽の村(停留所)	反応なし
	雨・14°C	樺岡付近の街灯	反応なし
2002.ix.3	18:30-21:00	緑と太陽の村(停留所)	反応なし
	晴れ・19°C・風速10m	東浦から海岸線を声間まで	反応なし
2002.ix.7		緑と太陽の村(停留所)	反応なし. 緑と太陽の村キャンプ場は閉鎖され街灯は消されていた
		樺岡付近の街灯	反応あり バズあり <20-20-25kHzで反応 複数個体 1個体飛翔確認
2002.ix.8		西海岸(豊富町境~ノシャップ)	反応なし
		百年記念塔	反応なし
2002.ix.14		宗谷岬~声間	反応なし
		緑と太陽の村(停留所)	反応なし

2) (N45°18'45.1", E141°48'42.7") : 樺岡近辺の街灯(白色, 10 m). バズを伴った20kHz以下から25kHzまでの複数個体の反応を確認した(8月17日).

3) (N45°14'56.3", E141°51'04.6") : 沼川市街の給油所の十字路付近. 特に給油所の低い街灯(高さ約6 m)に飛来していると思われた. 1個体からのもと思われる25kHzがピークとなった反応で, バズを伴っていた.

4) (N45°23'23.5", E141°48'25.6") : 緑と太陽

の村内のバンガローの街灯. バンガロー「サワギキョウ」と「マイヅルソウ」の間に位置する高さ7 m程度の白色の街灯に, 1個体からと思われる25kHzにピークを持つ反応があった. おそらく, 1)と同じ個体ではないかと思われた.

どの場所においてもバズを確認することができたため, 街灯に集まる虫を採餌するために訪れたコウモリであると思われた. 捕獲を行っていないのでこれらのコウモリがどの種に該当するのかは推測の域

を出さないが、佐藤ほか(2002)などによれば、キタクビワコウモリ、またはヒナコウモリの可能性がある。キタクビワコウモリは道北北部では利尻町、礼文町、豊富町などで複数個体が確認されているが、ヒナコウモリは2002年9月に礼文島で保護された1個体のみでの記録しかなく(佐藤, 2003), これらのことから筆者らはキタクビワコウモリの可能性が高いのではないかと考えている。

### 【標本調査】

稚内高校定時制職員室に保管されていたコウモリの未同定標本を見る機会に筆者らは恵まれ、その同定を行ったところ、オヒキコウモリ *Tadarida insignis* であることがわかった。この標本は定時制高校のシンボルとして長年、額に取められ飾られていた。北海道におけるオヒキコウモリの記録は、阿部(1961)で報告された焼尻島からの報告が唯一の記録であり、北海道ではこれが二例目の記録となった。標本にラベルが添付されていなかったが、幸いにもその由来については語り伝えられており、採集月日は不明であるが、昭和36年に生徒が国立療養所(現: 稚内病院, 稚内市こまどり2丁目)付近で捕獲してきたものを、当時勤務していた阿部利治氏が剥製にしたとされている(稚内高等学校定時制新聞部, 2002)。標本は額に針金によって固定されており、虫による食害もなく、今後も同校で大切に保管される予定である(図3)。計測値は以下の通りであった。前腕長, 57.7(mm), 下腿長, 16.0, 後足長, 9(10, 爪あり), 全長, 116, 標本状態における翼開長, 335。

焼尻島での本種の捕獲記録が昭和32年であり、今回発見された標本も昭和37年と大変古く、道北地域に本種が現在も棲息しているかどうかについては非常に疑問である。オヒキコウモリはかつては偶発的な発見例しかなかったが、近年、岸壁の岩場や校舎などのすき間などでコロニーが発見され始めたコウモリである(佐藤, 1999; 金井塚, 2000)。また、多くのコウモリとは異なり、人間の耳でも識別できる可聴音を出すことで知られている。今回、捕獲現場や付近の海岸部などでも可聴音が聞こえるかどう

か試みたが、コウモリによって発せられたと思われる可聴音を確認することはできなかった。

### 考察

今回の捕獲調査で確認できた種は、コテングコウモリとヒメホオヒゲコウモリの2種であり、両種とも道北地域ではもっとも普通に分布する種であった。このうちヒメホオヒゲコウモリは同地では初めての確認となったが、頭骨による同定が1個体のみであり、ホオヒゲコウモリの分布の可能性も残っている。周辺地域の豊富町および利尻島では5種のコウモリの確認があり、今後、カグヤコウモリやウサギコウモリ、ドーベントンコウモリなどが同地で確認される可能性もある。

また今回捕獲ができなかった25kHzの声を持つコウモリは、その反応の特徴から確認した2種以外であることには間違いなく、少なくとももう1種が稚内市に分布していることは確実と思われる。反応があった街灯付近の林で樹洞を探したものの、棲息の証拠をつかむことはなかったが、近隣の森から採



図3. 発見されたオヒキコウモリの標本。Figure 3. The specimen of *Tadarida insignis* captured in Wakkanai City in 1962.



餌にやってくるのではないかと思われた。本種の可能性としては豊富町や利尻、礼文両島からも記録があるキタクビワコウモリがまず考えられる。本種は樹洞の他、民家にも入ることがあるため、今後市民からの保護情報などを待ち、確認することができれば幸いと思う。

現在の棲息が確認できなかったものの、稚内市からオヒキコウモリの古い標本記録を初めて明らかにすることができた。道内からの記録は今回の記録も含めわずか二例と少ないが、その二例が同じ道北地域で昭和30年代に確認されたという事実はたいへん興味深い。1996年以來、オヒキコウモリの生息地が国内でも徐々に発見されはじめたものの(佐藤, 1999; 金井塚, 2000), それらは関西以南のことであり、北海道地域における本種の棲息に関する情報はコウモリの分布調査が進み始めている近年でも皆無といえる。北海道にオヒキコウモリが生息しているのかどうかについて結論を出すためには、本種に的を絞った調査が全道規模で更に行われる必要がある。

未確認種や標本のみの確認種を含めて合計4種のコウモリを稚内市で確認できたが、樹洞棲コウモリ(昼間の隠れ家として主に樹洞を利用するコウモリ)にとって同地における牧草地の拡大は一種の脅威となっているかもしれない。同じ緯度に位置し、稚内市の面積の約24%にしかすぎない利尻島におけるコウモリ相の方が豊かであることは、コウモリが好む環境が同地にまだ残されているからだと思われる。稚内市では森林棲コウモリが住むのに適した太い樹を有する天然林が少なくなっており、このような森林を守っていくことこそが、同地のコウモリ相を保護することにつながるのではないかと思われた。

## 参考文献

- 阿部 永, 1961. 北海道にて採集された稀種オヒキコウモリ及びトウキョウトガリネズミについて. 哺乳学誌, 2: 3-7.
- 阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 1994. 日本の哺乳類. 東海大学出版会. 195pp.
- 福井 大、前田喜四雄、佐藤雅彦、河合久仁子, 2003. 北海道におけるアブラコウモリ *Pipistrellus abrams* の初記録. 哺乳類科学, 43(1): (印刷中).
- 金井塚 務, 2000. オヒキコウモリのコロニーが見つかった. コウモリ通信, 8(1): 14-17.
- 河井大輔, 1999. 稚内の野生動物. 稚内市史編さん委員会, 稚内市史, 2: 42-44. 第一法規出版株式会社北海道支所. 札幌.
- コウモリ通信編集部, 2001. オヒキコウモリ捕獲記録. コウモリ通信, 7(1): 4-5.
- 前田喜四雄, 1983. 日本産翼手目(コウモリ類)の分類検索表. 哺乳類科学, (46): 11-20.
- 前田喜四雄, 1984. 日本産翼手目の採集記録(I). 哺乳類科学, (49): 55-78.
- 前田喜四雄, 1986. 日本産翼手目の採集記録(II). 哺乳類科学, (52): 79-97.
- 前田喜四雄, 1996. 日本産翼手目(コウモリ類)の分類レビューと解説. 哺乳類科学, 36(1): 1-23.
- 前田喜四雄, 1997. 日本産翼手目(コウモリ類)の和名再検討. 哺乳類科学, 36(2): 237-256.
- 前田喜四雄・佐藤雅彦, 1995. 利尻島におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (15): 45-48.
- 佐藤雅彦, 2002. 稚内と豊富におけるコテングコウモリの記録. 利尻研究, (21): 1-2.
- 佐藤雅彦, 2003. 道北北部におけるヒナコウモリの記録. 利尻研究, (22): 33-40.
- 佐藤雅彦・小杉和樹, 1994. 利尻島で記録されたコテングコウモリ. 利尻研究, (13): 1-2.
- 佐藤雅彦・前田喜四雄, 1999. 礼文と枝幸におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (18): 37-42.
- 佐藤雅彦・前田喜四雄・赤澤 泰・河合久仁子, 2000. 浜頓別町におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (19): 23-26.
- 佐藤雅彦・前田喜四雄・赤澤 泰, 2001. 豊富町と幌延町におけるコウモリ類の分布. 利尻研究, (20): 23-28.
- 佐藤雅彦・佐藤美穂子・前田喜四雄, 2002. 羽幌町と初山別村におけるコウモリ類の分布(その

1). 利尻研究, (21): 55-64.  
佐藤美穂子, 1999. オヒキコウモリとの出会い,  
コウモリ通信, 7(1): 2-3.  
稚内高等学校校定時制新聞部, 2002. 「こうもり」の

正体. 稚内高等学校校定時制新聞部. 稚高新聞定  
時制, (15): 1.  
稚内市史編纂室, 1968. 哺乳動物. 稚内市史,  
46-48. 三浦印刷. 札幌.